

第 11 回市史講座ミニレポート：平成 28 年 2 月 18 日（土）

「松江城を掘る一地下に眠る松江城の歴史」

講師：岡崎雄二郎先生（松江城部会専門委員）



岡崎先生は長年松江市の文化財行政に携わり、昭和から平成までの文化財事業に直接関わってこられました。今回はその中から、松江城内の発掘調査や整備事業に関わる内容をお話して頂きました。

第 1 部では来年 3 月に刊行される『松江市史』別編 1「松江城」のうち「松江城山の変遷」に関わる部分、第 2 部では松江城が文化財として認識されるようにいった過程と城内での発掘調査、第 3 部ではこれからの松江城の理解と活用について述べられました。

第 1 部では明治維新から昭和戦前までの松江城山の変遷について、写真と資料を用いて説明されました。明治維新以降、松江城の維持管理が陸軍から松平家へ移り公園化の方向へ向かう中での、城山の多目的な利用と施設の設置について、当時の写真などを元に説明されました。また、かつて城山内に設置され、のち市内各所へ移された記念碑や像の現状についても紹介されました。

昭和に入り城山が松江市に寄附され、具体的な整備構想が城山公園改造計画として策定されました。この計画には市民からのアイデアも反映されたそうです。整備計画のうち実施された部分、構想のままで残された部分がありましたが、史跡整備よりも都市公園を目指す整備であったことを指摘されました。

第 2 部では、昭和 9 年（1934）の史跡指定からの経緯と城内の発掘調査について話されました。

昭和 26 年（1951）に文化財保護委員会（文化庁の前身）から城内にあった施設を現状に戻すよう勧告がありましたが、当時の松江市は延期願いを出していました。昭和 30 年代に入ると県庁周辺の整備事業により、お花畑にあった松江刑務所の郊外移転など、県の施設が史跡外に移され、歴史公園として位置づけられました。昭和 40 年代に入ると、史跡整備に関わる発掘調査も行われ、現在まで史跡松

江城の各種の整備が行われました。ここで調査前や調査中の写真を紹介され、市民にとって懐かしい風景や、市民の方の知らない写真を見せて頂きました。また、トイレ遺構の出土に関わるエピソードや、御破損方・寺社修理方建物跡の上に江戸時代風の建物を建て、二之丸の茶店の代わりにテナントとして用いるなど、史跡整備に関わるお話もして頂きました。明治から昭和の松江城山の写真は未公表のものもあり、手近にまだ資料がある、と話されました。

第3部ではまとめとして、松江城の理解と活用について説明されました。『松江市史』別編1「松江城」では「国宝松江城天守」、「史跡松江城」、「遺跡松江城跡」、「松江城遺跡」の4点を基本構成とします。松江のシンボルとしてこの4点の特性を引き出し、市民や観光客にアピールする必要があること、そしてまだ多くの謎が残されている松江城の調査・研究を進めていくための組織・体制の充実強化が必要であること、そしてこれまでに蓄積された資料を将来にわたって適切に保管し、公開できる施設・体制づくりが必要であることを述べられました。